

## 第1回 香川県立高等技術学校あり方検討委員会 議事概要

日時：令和7年5月27日（火）

10時00分～11時15分

場所：香川県立高等技術学校

高松校 講堂

## 1 会議の日程及び場所

日時：令和7年5月27日（火）10時00分～11時15分

場所：香川県立高等技術学校 高松校 講堂

## 2 出席委員

重田委員、西中委員、梶島委員、西村委員、橋本委員、由佐委員、岡委員、白石委員、新池委員、立石委員（西尾氏代理出席）、森岡委員、山田委員

以上、香川県立高等技術学校あり方検討委員会委員（以下「委員」という。）12人中12人の出席につき、香川県立高等技術学校あり方検討委員会設置要綱（以下「設置要綱」という。）第5条第2項に定める「委員の過半数の出席」の委員会開催要件を充足した。

## 3 会長選任

1回目の委員会であるため、会長の選任を実施した。なお、会長の選任については、設置要綱第4条第2項の規定により「互選により決定する」こととなっている。

委員から意見を求めたところ、「香川県職業能力開発審議会にて会長を務めている西中委員が適任と考える。」との意見が出された。

委員に諮ったところ、異議はなかったため、西中委員が会長に選任された。

設置要綱第5条第1項に基づき、西中会長が議長席に着き、以後、議長を務めた。

## 4 議題

- (1) 検討委員会のスケジュールについて
- (2) 高等技術学校の現状について
- (3) 高等技術学校の施設のあり方の方向性について
- (4) 訓練科のあり方の方向性について
- (5) その他

## 5 議事録

### 議題（1）検討委員会のスケジュールについて

●議長が「検討委員会のスケジュール」について事務局に説明を指示した。

●事務局が配付資料に基づき説明した。

- ・検討委員会のスケジュールについて【資料 ページ1】

●議長が、委員に事務局の説明に対する質疑、意見等を求めた。

（委員）特になし

- ・異議はなかったため、事務局が提示したスケジュール案のとおり実施することとなった。

## 議題（2）高等技術学校の現状について

●議長が「高等技術学校の現状について」事務局に説明を指示した。

●事務局が配付資料に基づき説明した。

・高等技術学校の現状について【資料 ページ2～9】

●議長が、委員に事務局の説明に対する質疑、意見等を求めた。

(委員) 特になし

## 議題（3）高等技術学校の施設のあり方の方向性について

●議長が「高等技術学校の施設のあり方の方向性について」事務局に説明を指示した。

●事務局が配付資料に基づき説明した。

・高等技術学校の施設のあり方の方向性について【資料 ページ10～18】

●議長が、委員に事務局の説明に対する質疑、意見等を求めた。

・下記の質疑、意見等を踏まえ、高等技術学校の施設のあり方の方向性については、高松校は建て替えを行い、丸亀校は存続させるという方向性で議論を進めることとなった。

(委員)

事務局からの説明のとおり、県と国で訓練内容について役割分担を行っているものと認識している。一方、定員の充足率については、県・国ともに課題を抱えていると伺っている。今後、県が訓練のあり方を検討する際には、引き続き県と国で役割分担を行うとともに、求人・求職のニーズに即した訓練科の見直しについても検討されたい。

(委員)

資料12ページにおいて、四国職業能力開発大学校との役割分担について説明があった。地域ごとの役割分担については、香川県内においては資料記載のとおりであると思われるが、実際には同校は付属の高知職業能力開発短期大学校とともに四国全域から入校者を受け入れている。

(委員)

最近のものづくり人材の育成では、あらゆる分野でITを取り入れ、さらにAIも導入されつあると伺っている。近年、製造業の現場では自動化が進展しており、初歩的な加工実習のレベルにとどまると、将来的な活躍の場が限定される可能性があると考えられる。こうした点も踏まえ、今後のあり方について検討する必要がある。

(委員)

資料16ページにおいて訓練需要に関する記載があった。エリアをまたいで入校を希望する者は少ないと考えられる。通学の利便性を考慮すると、自らの居住するエリア内で学びたいと考えている方が多いと思われる。訓練科の内容や各エリアの企業状況には違いがあるが、それぞれのエリアにおいて訓練希望者がスキルアップを図り、地域の企業等へ就職できることが重要であると考える。

(委員)

資料 13 ページの説明において、民間教育機関の自動車関連学科には留学生が多いとの説明があつたが、日本人の希望者が少ないとから、留学生の受け入れに力を入れている側面もあると考えられる。類似するコースが公的機関と民間機関の双方に設置されている場合、現状では公的機関に希望者が集まりやすい傾向がある。就職に結びつく学科の設置は官民いずれにとっても重要であるが、両者の役割分担のあり方については課題がある。例えば、類似コースについては定員を調整するなどの対応も検討が必要ではないか。

(委員)

高等技術学校の訓練生については、出前講座等を通じて受講の様子を拝見する機会があつたが、訓練生が意欲的に取り組んでいる様子が印象的であった。県内企業は人材育成に課題を抱えており、高等技術学校の卒業生を採用したいという企業ニーズが非常に高いと伺っている。一方で、高等技術学校の存在を十分に認知していない企業もあるとの指摘があつた。今後、建物等を改修する際には、最先端の設備を整備し、卒業生が採用先企業でより一層活躍できるよう配慮されたい。

#### 議題（4）訓練科のあり方の方向性について

- 議長が「訓練科のあり方の方向性について」事務局に説明を指示した。
- 事務局が配付資料に基づき説明した。
  - ・訓練科のあり方の方向性について【資料 ページ 19～26】
- 議長が、委員に事務局の説明に対する質疑、意見等を求めた。
  - ・下記の質疑、意見等を踏まえ、事務局において訓練科見直し案を作成し、次回の検討委員会にて提案することとなった。

(委員)

19 ページ、20 ページでの説明を受け、IT 分野については、金属関連分野や機械関連分野と比較して、技術専門コース・求職者向けコースともに、全国的にはそれほど高いニーズがないのではないかという印象を持っている。IT 分野は人材不足が指摘されているものの、全国的には必ずしも深刻な状況ではないのではないかと考えている。訓練科の設置対応が遅れているためなのか、あるいは根本的にニーズがあまり高くないのか、その点について疑問を感じている。

(委員)

デジタル分野の求人に関しては、すぐにマッチングする企業は多くないものの、IT 関連分野は裾野が広いため、関連企業への就職に結びついていると伺っている。

(委員)

企業側においても、デジタル人材の活用方法が十分に把握できていないケースが多いのではないかと考えられる。一方で、DX 関係の講習は、ニーズが高いと伺っている。「訓練」という

言葉には、決められた内容を一方的に学ぶという印象があり、主体的に学ぶという意味合いはあまり感じられない。「訓練するところ」と表現されて、積極的に通いたいと思うかについても疑問がある。さまざまな制約がある可能性も考えられるが、用語の使い方についても検討が必要ではないか。

(事務局)

IT人材についての話があった。県では企業立地に取り組んでいて、付加価値の高い製造業や、地の利を生かした物流業にも力を入れているが、今一番誘致に力を入れているのは情報通信関連企業。いわゆる若者に人気の高い分野となっている。実績としては、全国規模のIT企業によるデータセンターの進出などがある。特に大手IT企業が求めるIT・AI人材はレベルが高く、県の就職支援サービスなどでもなかなか見つからない。高専や大学にも足を運んだが、地元に残る学生が少なく、多くは東京などに行ってしまう。地元に人材を残すためには県の施策として頑張っていく必要があると考えている。民間でも実施しているコースについては住み分けも考慮しながら、最先端の企業を誘致し、マッチングできる人材を育成して地元に残ってもらうことが重要だと考えている。

(委員)

今後は、設備のさらなるデジタル化が進むものと思われるため、住み分けを考慮しつつ、県ならではの訓練や技術系分野のDXも含めて今後のあり方を検討していくことが望ましいと考える。

(委員)

高卒者については、高校との接続や連携を意識していくことが大事だと感じている。高校まで何を学び、何を学んでいないのかを意識しながら今後のあり方を考えていく必要があると思う。高校生が何を求めているのかという部分も重要なとなる。

また、教育内容もそうだが、施設設備などに魅力を感じる人も多い。施設設備が古いという意見もあったが、実際には立派な施設設備だと感じた。新しい施設設備への更新も含めて、求職者や高校生から見て魅力的に映るような施設設備にすることも大切だと感じている。

(委員)

障害者の方から相談を受けることがあるが、支援員の方が企業との間に立って調整する場面が多く、支援員の方を頼りにしたいという声がある一方で、支援員が忙しくて自分の番がなかなか回ってこないため困っているという話も聞く。障害者の方への訓練も重要だが、支援員のスキルアップや人材の育成にも力を入れていくのが良いのではないかと考えている。

(委員)

企業が求める人材像にも十分配慮しつつ、検討を進めていただきたい。また、就職率については、どの程度の期間を対象として算出しているのか確認したい。

(事務局)

技術専門コースについては、訓練が終了する前に就職が決まっているケースが多い。一方、求職者向けコースは訓練を終えてから本格的に就職活動を始める人もいるため、訓練終了後3か月後の就職率を集計している。

(委員)

昨年10月に新設された丸亀校の建築施工CAD科については、廃止前の訓練科と比較して入校者数が少ない印象を持っているが、今年4月の状況はどうであったのか確認したい。

(事務局)

今年4月の入校者数は2名であった。今後のあり方を検討する中で、丸亀校のカリキュラムについても高松校と同様に見直しを進めていきたいと考えている。

#### 議題(5) その他

●議長からあり方の検討全般について質疑、意見等を委員に求めた。

(委員) 特になし

以上のとおり、質疑・応答がなされ、会議を閉会した。

# 第1回 香川県立高等技術学校あり方検討委員会 次第

日 時：令和7年5月27日（火）10:00～

場 所：高等技術学校 高松校 講堂棟

## 1 開 会

## 2 あいさつ

## 3 出席者紹介

## 4 議 題

(1) 検討委員会のスケジュールについて・・・・・・・ 資料 ページ1

(2) 高等技術学校の現状について・・・・・・・・ 資料 ページ2～9

(3) 高等技術学校の施設のあり方の方向性について・・・ 資料 ページ10～18

(4) 訓練科のあり方の方向性について・・・・・・・ 資料 ページ19～26

(5) そ の 他

## 5 閉 会

### ※参考資料

- ・香川県立高等技術学校関係資料
- ・四国職業能力開発大学校関係資料
- ・香川職業能力開発促進センター関係資料

# 香川県立高等技術学校あり方検討委員会設置要綱

## (目的)

第1条 高等技術学校が現在地に建設されてから、高松校は60年、丸亀校は46年が経過し、施設や設備の老朽化が進む中での学校施設全体の整備の方向性に加え、地域・産業ニーズと社会経済システムの変化を踏まえた、県内産業界が求める人材を安定的に輩出できる訓練内容や規模などを検討するため、香川県立高等技術学校あり方検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

## (検討事項)

第2条 委員会の委員は、次に掲げる事項について検討し、意見を述べる。

- ① 施設のあり方に関すること
- ② 訓練科のあり方に関すること
- ③ その他、高等技術学校のあり方に関すること

## (組織)

第3条 委員会は、委員12人以内をもつて組織する。

2 委員は、次に掲げる者の中から、知事が委嘱し、又は任命する。

- ① 関係行政機関の職員
- ② 識見を有する者
- ③ 各種団体の代表又は各種団体の推薦する者

## (会長)

第4条 委員会に会長を置く。

2 会長は、互選により決定する。

3 会長は、会務を総理する。

4 会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

## (会議)

第5条 委員会の会議は、会長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席によって成立する。

3 委員長は、必要があるときは、委員会の委員以外の者に出席を求め、意見を聞くことができる。

## (代理出席)

第6条 第3条2①及び③に規定する委員は、その所属する機関又は団体の職員を代理人として出席させることができる。

## (庶務)

第7条 委員会の庶務は、労働政策課において処理する。

## (補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

## 附 則

この要綱は、令和7年5月2日から施行する。

## 香川県立高等技術学校あり方検討委員会スケジュール

### ○今後の開催日程(案)

会議	日程
第1回	令和7年5月 27 日
第2回	令和7年 10~11月頃
第3回	令和8年1月頃
第4回	令和8年3月頃

## 高等技術学校の概要について

○職業能力開発促進法第16条により、県に職業能力開発校の設置を義務付け。  
香川県立高等技術学校は条例により設置。高松校と丸亀校の1校2キャンパス。



## 訓練科の概要について

校別	対象者	科名	定員	訓練期間	入校月
高松校	高卒以上・離転職者40歳未満 【技術専門コース】	電気システム科	15人×2	2年	4月
		自動車工学科	20人×2	2年	4月
		建築システム科	15人×2	2年	4月
		機械システム科	10人×2	2年	4月
	離転職者・中卒以上 【求職者向けコース】	塗装技術科	10人×1	1年	4月
		造園科	30人×2	6か月	4月・10月
丸亀校	離転職者・中卒以上 【求職者向けコース】	デザイン科	10人×2	6か月	4月・10月
		介護サービス科	15人×2	2か月	7月・1月
		電気設備科	15人×2	6か月	7月・1月
		建築施工CAD科	15人×2	6か月	4月・10月
		金属ものづくり科	5人×4	6か月	4月・7月 10月・1月
		パソコンCAD科	15人×2	6か月	4月・10月
		情報ビジネス科	22人×2	6か月	4月・10月
総定員		394人			

※その他、働く人のスキルアップを目的に2日～10日間の講習を行うキャリアアップコースがある。

## 訓練科詳細(訓練内容、取得できる資格)

訓練科	訓練内容	取得できる資格
高松校	電気システム科 (2年)	電気工事、電気・機械制御、空調設備などの知識と技術
	自動車工学科 (2年)	2級自動車整備士の養成
	建築システム科 (2年)	木造や鉄筋コンクリート造を中心とした建築物の設計・施工技術、CAD操作など建築技術者に必要な専門的な知識と技能の習得
	機械システム科 (2年)	コンピュータ制御機械・普通旋盤・フライス盤など各種工作機械を用いた加工技能や溶接技能、CADを用いた機械部品の製図技能等
	塗装技術科 (1年)	塗装に必要なバテ付け、マスキングなどの下地処理からコンピュータでの調色方法を学び、板金塗装や外壁などの住宅塗装及び木工塗装の施工技術の習得
	造園科 (6か月)	樹木の管理や庭園の作製に必要な知識と技術
	デザイン科 (6か月)	パソコンを使用したロゴやチラシ等の印刷物の企画及びデザインから、HTML・CSSでのWEBサイト制作および動画広告まで、広告宣伝に必要なデザインの知識と技術
	介護サービス科 (2か月)	介護に必要な知識と技術(介護職員初任者研修課程)
	電気設備科 (6か月)	第2種電気工事士の資格取得に必要な知識と技術
	建築施工CAD科 (6か月)	2級建築施工管理技士試験等の資格取得に必要な知識や建築CAD技術
丸亀校	金属ものづくり科 (6か月)	「金属」を加工して「ものづくり」に貢献する事業所へ就職するために必要な金属加工や溶接に関する基本的な知識・技術や技能の習得
	パソコンCAD科 (6か月)	機械CAD利用技術の習得、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフト等のパソコン技術の習得
	情報ビジネス科 (6か月)	ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの習熟やWEBページ管理の知識等、日商簿記の資格取得、実務的な知識と会計ソフトの使い方

## 訓練の実施状況について

### 入校率(令和3年度～令和6年度修了コース)

訓練課程				令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度				
校別	コース	期間	訓練科目	定員	入校者数	入校率	定員	入校者数	入校率	定員	入校者数	入校率		
高松	技術専門	2年	電気システム科	15	10	66.7%	15	9	60.0%	15	11	73.3%		
			自動車工学科	25	17	68.0%	25	25	100.0%	25	20	80.0%		
		6か月	建築システム科	15	9	60.0%	15	10	66.7%	15	7	46.7%		
			機械システム科	10	3	30.0%	10	6	60.0%	10	3	30.0%		
	求職者向け	1年	塗装技術科	10	3	30.0%	10	3	30.0%	10	2	20.0%		
			造園科	60	35	58.3%	60	34	56.7%	60	32	53.3%		
		2か月	(住まいリフォーム科)	40	29	72.5%	40	19	47.5%	40	19	47.5%		
			デザイン科	20	20	100.0%	20	20	100.0%	20	20	100.0%		
丸亀	技術専門	1年	介護サービス科	-	-	-	30	14	46.7%	30	17	56.7%		
			(電気工事科)	20	10	50.0%	20	9	45.0%	20	12	60.0%		
		6か月	(住宅建築施工科)	15	11	73.3%	15	11	73.3%	15	10	66.7%		
			電気設備科	-	-	-	-	-	-	-	-	30		
	求職者向け	6か月	建築施工CAD科	-	-	-	-	-	-	-	-	15		
			金属ものづくり科	20	5	25.0%	20	9	45.0%	20	6	30.0%		
		2か月	パソコンCAD科	30	24	80.0%	30	27	90.0%	30	26	86.7%		
			情報ビジネス科	44	44	100.0%	44	43	97.7%	44	39	88.6%		
			(ビル設備管理科)	20	16	80.0%	20	16	80.0%	20	15	75.0%		
県立高等技術学校 合計				344	236	68.6%	374	255	68.2%	374	242	64.7%		
												58.7%		

### 就職率(令和3年度～令和6年度修了コース)

訓練課程				令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度				
校別	コース	期間	訓練科目	修了者数	就職者数	修了者就職率	修了者数	就職者数	修了者就職率	修了者数	就職者数	修了者就職率		
高松	技術専門	2年	電気システム科	8	8	100.0%	8	8	100.0%	10	9	90.0%		
			自動車工学科	17	17	100.0%	22	21	95.5%	20	20	100.0%		
		6か月	建築システム科	6	5	83.3%	9	9	100.0%	9	9	100.0%		
			機械システム科	3	3	100.0%	4	4	100.0%	1	1	100.0%		
	求職者向け	1年	塗装技術科	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%		
			造園科	32	29	90.6%	32	30	93.8%	31	27	87.1%		
		2か月	(住まいリフォーム科)	26	18	69.2%	17	16	94.1%	18	14	77.8%		
			デザイン科	18	13	72.2%	19	15	78.9%	19	16	84.2%		
丸亀	技術専門	1年	介護サービス科	-	-	-	12	11	91.7%	17	14	82.4%		
			(電気工事科)	6	5	83.3%	8	7	87.5%	9	7	77.8%		
		6か月	(住宅建築施工科)	10	9	90.0%	8	7	87.5%	8	6	75.0%		
			電気設備科	-	-	-	-	-	-	-	-	9		
	求職者向け	6か月	建築施工CAD科	-	-	-	-	-	-	-	-	4		
			金属ものづくり科	5	3	60.0%	9	8	88.9%	5	5	100.0%		
		2か月	パソコンCAD科	18	14	77.8%	25	21	84.0%	22	20	90.9%		
			情報ビジネス科	40	31	77.5%	40	32	80.0%	32	20	62.5%		
			(ビル設備管理科)	16	14	87.5%	13	6	46.2%	14	11	78.6%		
県立高等技術学校 合計				207	171	82.6%	228	197	86.4%	217	181	83.4%		
												184		

集計中(6月末に確定)

\*1 修了者ベース（各年度において、修了者に着目したデータ。）

\*2 R3年度介護サービス科休止。R4年度に介護サービス科を訓練期間2か月として再開

\*3 R5年度に電気工事科及びビル設備管理科を廃止し、電気設備科を新設。

\*4 R6年度に住宅建築施工科及び住まいリフォーム科を廃止し、建築施工CAD科を新設。

## 高松校の施設の現状について

○高松校は平成24年度から26年度に主要8施設のうち7施設に耐震改修を行っているものの、5施設が築60年を経過し、施設の老朽化が著しい。

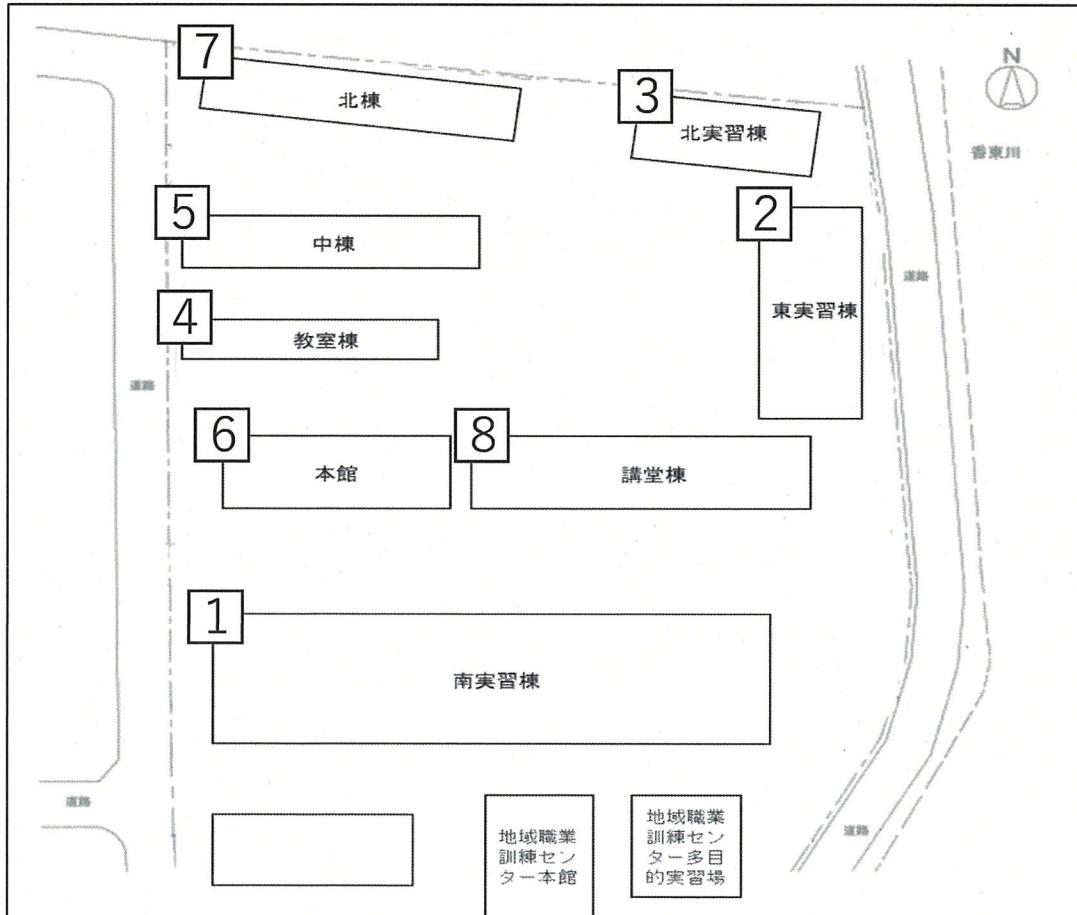
建物内の配線の鞘管の腐食、配線の被覆の硬化・ひび割れなども目立ってきており、躯体は一定の耐震性を有するものの、訓練を安全かつ効果的に実施していく観点から、老朽化への対応は喫緊の課題である。

高松校 主要建物経過年数

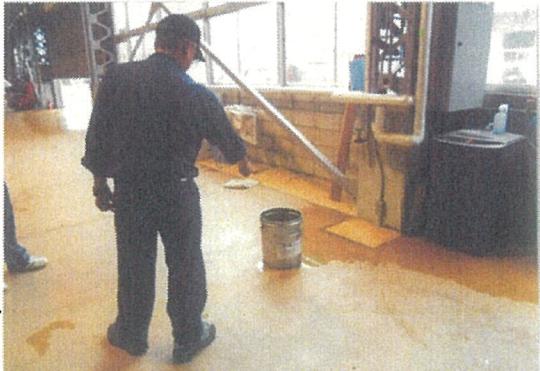
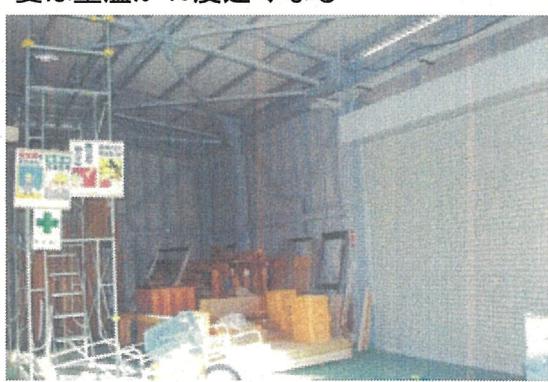
番号	建物名	建設年月	経過年数 (令和7年3月末時点)	延べ床面積 [m <sup>2</sup> ]	備考
1	南実習棟	S40. 3	60	2943. 2	電気、自動車、機械の実習場等
2	東実習棟	S40. 3	60	598. 64	建築システム科の実習場等
3	北実習棟	S40. 3	60	390	造園科実習場
4	教室棟	S40. 3	60	693. 92	技術専門コースの教室
5	中棟	S40. 3	60	981. 66	デザイン科、介護サービス科の教室・実習場等
	" (※)	S45. 3	55		
6	本館	S42. 8	57	1011. 55	職員室、学生ホール等
7	北棟	S44. 3	56	1598. 88	パソコン室、建築の実習場等
8	講堂棟	H5. 3	32	1522. 45	講堂、塗装技術科、機械実習場

(※) 増築分

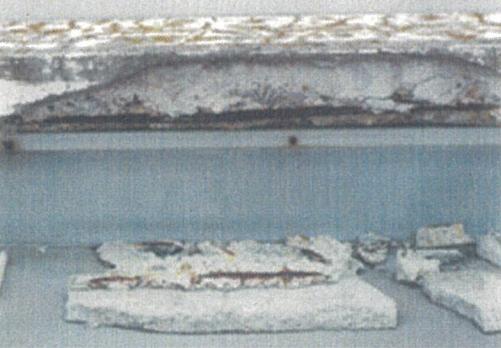
高松校 校舎配置図



## 高松校 各建物の状況

建物名称	状況（主な状況）
南実習棟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨が多いときに、屋根や壁、シャッターなどから雨漏りが発生</li> <li>・夏は室内の温度が40度近くまで上がることがある</li> <li>・壁の下のコンクリート部分にひび割れや塗装のはがれがある</li> <li>・床にも多数のひび割れがある</li> <li>・屋根の雨どいや、雨水を流すパイプ、それを支える金具が古くなっている</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>屋根からの雨漏り</b></p> 
東実習棟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏は室温が40度近くなる</li> <li>・屋根が古く、雨漏りがある</li> <li>・雨どいやパイプ、金具が古い</li> <li>・出入口に排水用の溝がない</li> <li>・ドアや窓の開け閉めがしにくい</li> <li>・すき間や強度が足りない</li> <li>・床面が平らでない</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>床面雨漏り跡の水溜まり</b></p> 
北実習棟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気の容量やコンセントが足りない</li> <li>・夏は室温が40度近くなる</li> <li>・ドアや窓の立て付けが悪く、鍵がかけにくい</li> <li>・出入口に排水用の溝がない</li> <li>・床面が平らでない</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>夏は室温が40度近くなる</b></p> 
教室棟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物全体にひび割れが多い</li> <li>・床の中の鉄筋がさびている</li> <li>・渡り廊下の鉄骨がさびている</li> <li>・2階に上がる階段が古くなっている</li> <li>・ドアや窓の開け閉めがしにくい</li> <li>・天井や雨どいのまわりに雨漏りのあとがある</li> <li>・3階の窓の下が低く、落下防止の手すりがない</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>階段室天井高175 cm</b></p> 

## 高松校 各建物の状況

建物名称	状況（主な状況）
中棟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物全体にひび割れが多い</li> <li>・屋上の防水シートが古く、排水口がさびている</li> <li>・天井に雨漏りがあり、天井の板が壊れている</li> <li>・トイレやドアが古くなつて傷んでいる</li> <li>・ドアや窓の開け閉めがしにくいくらい</li> <li>・階段の手すりが低い</li> </ul>
	<p>屋根の下のコンクリートが割れて、はがれ落ちている</p> 
本館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物全体にひび割れやコンクリートのはがれ、割れが多い</li> <li>・外階段の金属部分がさびていて、手すりの取り付け部分の壁がはがれている</li> <li>・雨どいや金具、設備や配管が古く、さびている</li> <li>・ドアや窓の開け閉めがしにくく、すき間や強度が足りない</li> <li>・天井や壁の下にも雨漏りのあとがある</li> <li>・天井が低く、窓のまわりが暗い</li> </ul>
	<p>屋上の防水シート端の押さえ部分の破損</p> 
北棟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物全体にひび割れが多い</li> <li>・電気の容量やコンセントが足りない</li> <li>・トイレがない</li> <li>・ドアや窓の開け閉めがしにくく、すき間や強度が足りない</li> <li>・雨漏りが多く、通路になっているバルコニーに水がたまる</li> </ul>
	
	<p>天井の支え部分にひび割れがある（左）、木製建具のシロアリによる被害（右）</p>
講堂棟	<p>平成6年度建設のため、大きな不具合はないものの、講堂の音響の設備や機器が古くなつていています。</p> 

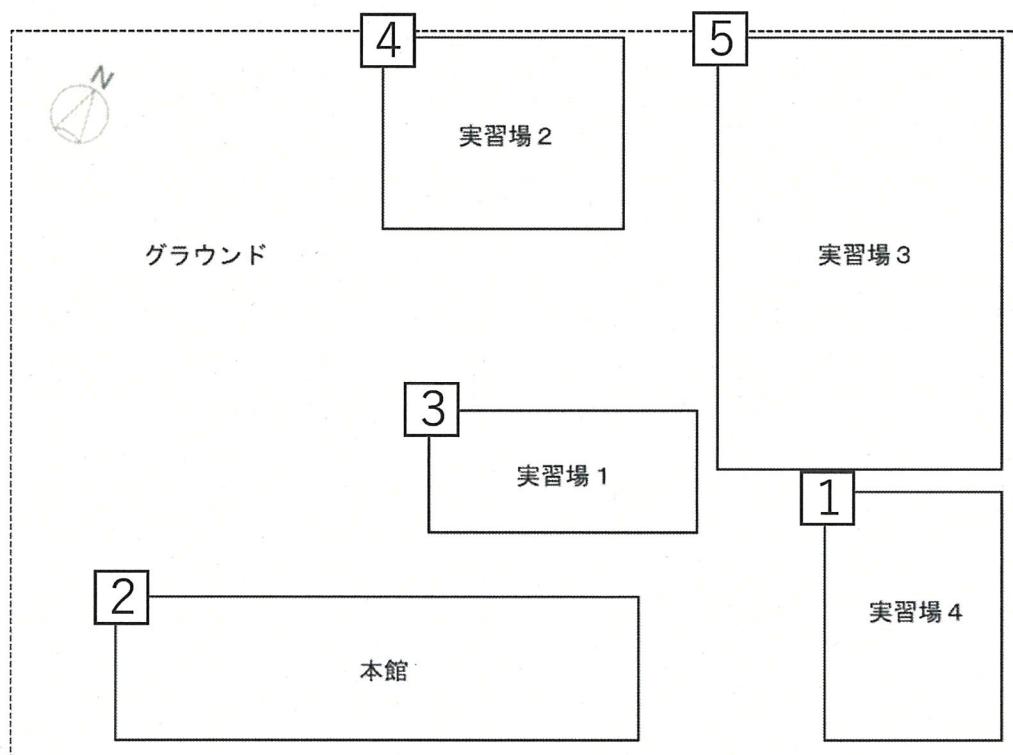
## 丸亀校の施設の現状について

○丸亀校については、主要な校舎は昭和50年代に整備され、校内には、本館と4カ所の実習場の5施設がある。R7年度は屋上防水の改修を行うなど、適宜修繕を行っており、現時点では改築が直ちに必要な状況ではなく、適時に修繕を行いながら使用していくという状態である。

### 主要建物経過年数

番号	建物名	建設年月	経過年数 (令和7年3月末時点)	延べ床面積 [m <sup>2</sup> ]	備考
1	実習場 4	S54. 3	46	379. 54	建築施工CAD科実習場 I
2	本館	S55. 3	45	1370. 81	職員室、パソコン系実習室等
3	実習場 1	S57. 3	43	405	各科教室、共通実習場
4	実習場 2	S57. 3	43	396. 17	建築施工CAD科実習場 II
5	実習場 3	H6. 11	30	2038. 36	電気設備科・金属ものづくり科実習場 等

### 丸亀校 校舎配置図



### 改修等を要する内容

#### (1) トイレの改修（女性用トイレの増設及び洋式化）

（参考）トイレ設置数

- ・女性用 5 (うち、洋式 1、和式 4)
- ・男性用 27 (うち、洋式 1、和式 8、小便器 18)
- ・バリアフリートイレ 1

#### (2) 冷房設備の設置

- ・実習場及び一部教室に設置なし。

## 各建物の状況

○トイレの洋式化や空調設備の設置など改修等が必要であるものの、現時点で直ちに改築が必要な状況ではない。

建物風景

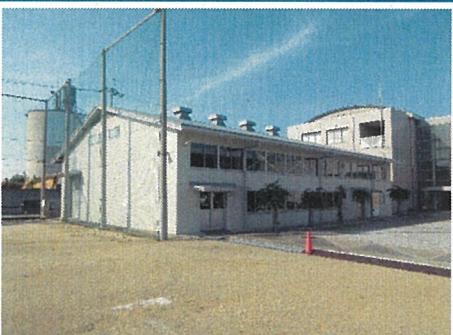
本館



実習場 1



実習場 2



実習場 3



実習場 4



改修等を要する場所

和式トイレ（トイレの洋式化）



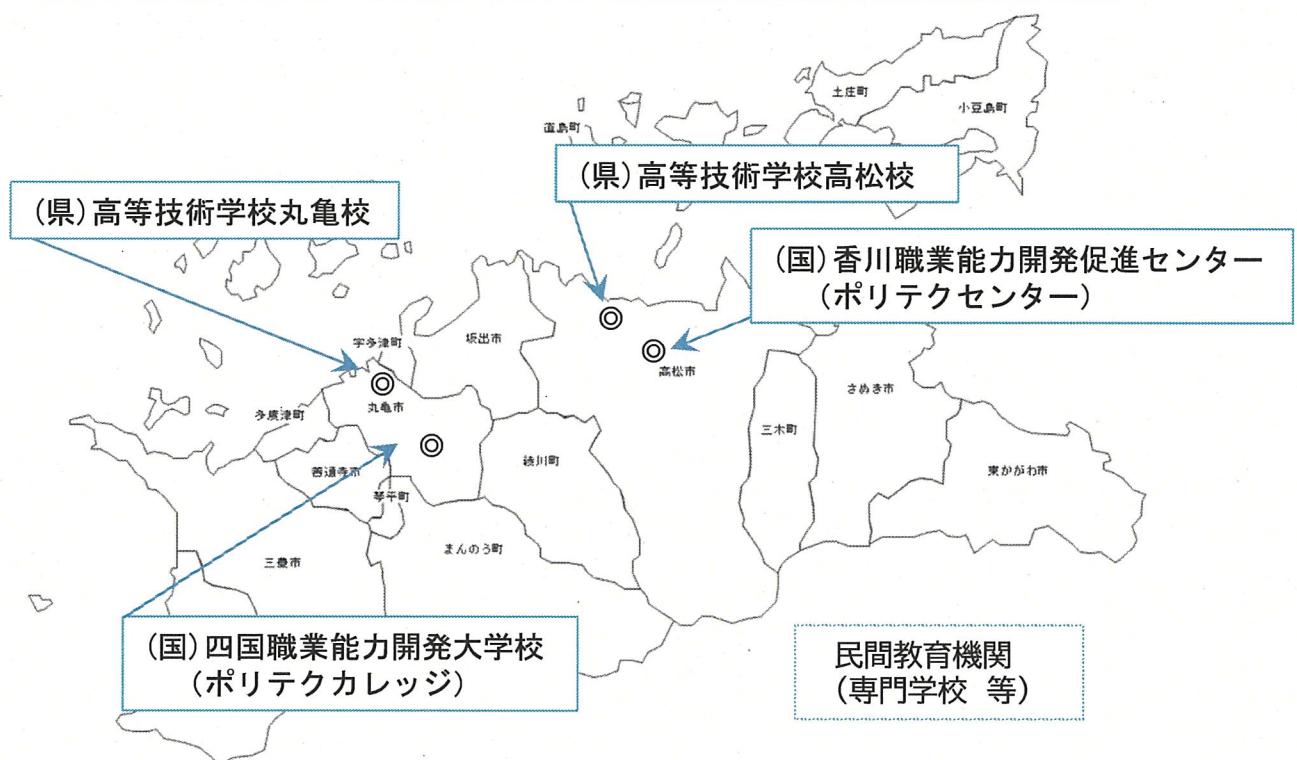
エアコンが設置されていない教室



## 国や民間教育機関との役割分担について

- 民間教育機関や職業能力開発大学校(ポリテクカレッジ)、職業能力開発促進センター(ポリテクセンター)などの職業訓練機関とは、それぞれの強みや特色を活かしながら、職業能力開発分野における適切な役割分担を図る。

### 香川県内の職業能力開発関係施設



### 県と国との役割分担

対象等 エリア	西エリア	東エリア
対象: 高卒者等 期間: 2年	(国) ポリテクカレッジ	(県) 高等技術学校高松校
対象: 求職者 期間: 1年以下	(県) 高等技術学校丸亀校	(国) ポリテクセンター ( (県) 高等技術学校高松校 )

## (国)香川職業能力開発促進センター(ポリテクセンター)との役割分担

○ポリテクセンターは、産業構造の変化等に伴う離転職者向け職業訓練等を行う施設。全国的に、機械、金属、電気、電子、建築、ビル管理等に係る訓練科(普通職業訓練の短期課程)を設定。

### 香川職業能力開発促進センター(ポリテクセンター)訓練科

課程	訓練科
機械系	ものづくり溶接加工科 機械・CADオペレーション科
短期課程	電気設備エンジニア科
電気電子系	ICTシステム科
居住系	ビル管理技術科

### (県)求職者向けコースとの比較

類似点:訓練分野が一部類似。(パソコンCAD科と機械・CADオペレーション科 等)

訓練対象者が同一(どちらも求職者対象)。

相違点:訓練内容の相違。(競合とならないよう調整している。)

地域的な住み分けができている。

(例)	訓練科名	訓練内容
(県)求職者向けコース	パソコンCAD科	事務能力の向上を主体としたCAD及びパソコン操作の技能・技術を習得
(国)ポリテクセンター	機械・CADオペレーション科	機械製図と機械加工に関する技能・技術を習得

### (県) 高等技術学校(求職者向けコース)

訓練科	所在地
塗装技術科	
その他 造園科	高松市
デザイン科	(高松校)
介護サービス科	

### (国) ポリテクセンター

訓練科	所在地
機械系 ものづくり溶接加工科	
機械・CADオペレーション科	
電気電子系 電気設備エンジニア科	高松市
ICTシステム科	
居住系 ビル管理技術科	

### 訓練科

訓練科	所在地
電気電子系 電気設備科	
居住系 建築施工CAD科	
機械系 丸亀市 金属ものづくり科 (丸亀校)	
パソコンCAD科	
その他 情報ビジネス科	

## ■ (国)四国職業能力開発大学校(ポリテクカレッジ)との役割分担

○ポリテクカレッジは高度人材の育成を目的とした公共職業訓練として、高度職業訓練の専門課程と応用課程を行う施設。全国に10カ所ある職業能力開発大学校(省庁大学校)の一つとして、四国(香川県)に設置され、対象者は高校卒業者。

### 四国職業能力開発大学校(ポリテクカレッジ)訓練科

課程	訓練科	
専門課程	機械系	生産機械技術科
	電気電子系	電気エネルギー制御科
	電子情報系	電子情報技術科
居住系	居住環境科	
機械系	生産機械システム技術科	
応用課程	電気電子系	生産電気システム技術科
	電子情報系	生産電子情報システム技術科

### (県)技術専門コースとの比較

類似点:訓練内容の一部が類似。(機械システム科と生産機械技術科 等)  
対象者が同一。(高卒者等)

相違点:習得する技能及び知識の程度が異なる。  
地域的な住み分けができている。

名称	法令上の分類	概要	訓練期間	所在地
技術専門コース (高等技術学校)	普通職業訓練- 普通課程	高卒者等に対する職業訓練 を実施	2年間	高松市
ポリテクカレッジ	高度職業訓練- 専門課程	高卒者等に対する高度な職業訓練を実施	2年間 (応用課程に進学可能)	丸亀市
	高度職業訓練- 応用課程	専門課程修了者等に対する高度で専門的かつ応用的な職業訓練を実施	2年間 と計4年間)	

## ■ 民間教育機関(専門学校等)との役割分担

○専門学校は高等学校等卒業者が対象とし、県内の専門学校は23校(私立22校)のうち18校が高松市内。高松市以外では、丸亀市、善通寺市、三豊市、宇多津町にある(全て医療・福祉系)

※詳細は14、15ページのとおり。

### 県内の専門学校一覧(市町別)

所在地	学校名	課程
高松市	吉田愛服飾専門学校	服飾・家政専門
	キッス調理技術専門学校	衛生専門
	シャルムドレスメーカー専門学校	服飾・家政専門
	高松市医師会看護専門学校	医療専門
	香川県歯科医療専門学校	医療専門
	専門学校穴吹コンピュータカレッジ	工業専門
	専門学校穴吹ビジネスカレッジ	商業実務専門、文化教養専門
	専門学校穴吹デザインカレッジ	工業専門、文化教養専門
	四国総合ビジネス専門学校	工業専門、商業実務専門
	四国医療福祉専門学校	教育・社会福祉専門、医療専門
	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ	医療専門
	専門学校穴吹工科カレッジ	工業専門
丸亀市	専門学校穴吹ビューティカレッジ	衛生専門、文化教養専門
	専門学校穴吹パティシエ福祉カレッジ	教育・社会福祉専門、衛生専門
	専門学校穴吹動物看護カレッジ	文化教養専門
	穴吹医療大学校	医療専門、商業実務専門
	専修学校香川県美容学校	衛生専門
善通寺市	瀬戸内ナーシング学院	医療専門、教育・社会福祉専門
	さぬき福祉専門学校	教育・社会福祉専門
	香川看護専門学校	医療専門
三豊市	四国こどもとおとの医療センター附属善通寺看護学校	医療専門
	四国学院大学専門学校	教育・社会福祉専門
宇多津町	四国医療専門学校	医療専門

### (県)技術専門コースとの比較

○下記のとおり、自動車工学科と専門学校の実施コースが、いずれも2級自動車整備士の養成を目的としている。

校名	科名	概要
(県)高等技術学校高松校	自動車工学科	2級自動車整備士の養成
専門学校穴吹工科カレッジ	自動車整備科	2級自動車整備士の養成

## 県内の専門学校 学科一覧（課程別）

課程	学校名	学科名
工業専門	四国総合ビジネス専門学校 (高松市)	情報処理学科
	専門学校穴吹コンピュータカレッジ (高松市)	情報システム学科 AIテクノロジー学科 ネットワークセキュリティ学科 国際ITエンジニア学科
	専門学校穴吹デザインカレッジ (高松市)	グラフィックデザイン学科 トータルインテリア学科 ネット動画クリエイター学科 ゲームクリエイター学科
	専門学校穴吹工科カレッジ (高松市)	自動車整備学科(2年制) 自動車整備学科(3年制)
	さぬき福祉専門学校 (丸亀市)	介護福祉学科
	瀬戸内ナーシング学院 (高松市)	保育学科
	四国医療福祉専門学校 (高松市)	介護福祉学科
	四国学院大学専門学校 (三豊市)	福祉学科
教育・社会福祉専門	専門学校穴吹パティシエ福祉カレッジ (高松市)	介護福祉学科 こども保育学科
	専門学校穴吹ビジネスカレッジ (高松市)	未来創造ビジネス学科 企業ビジネス学科 国際ビジネス学科 国際ビジネスベーシック学科
	穴吹医療大学校 (高松市)	医療事務・ドクター秘書学科
	四国総合ビジネス専門学校 (高松市)	ビジネス情報学科
	専門学校穴吹ビジネスカレッジ (高松市)	外語ビジネス学科 公務員ビジネス学科 公務員学科 日本語学科
	専門学校穴吹デザインカレッジ (高松市)	マンガ・コミックイラスト学科
	専門学校穴吹ビューティカレッジ (高松市)	ビューティーコーディネーター学科 トータルエステティック学科 ブライダル学科

## 県内の専門学校 学科一覧（課程別）

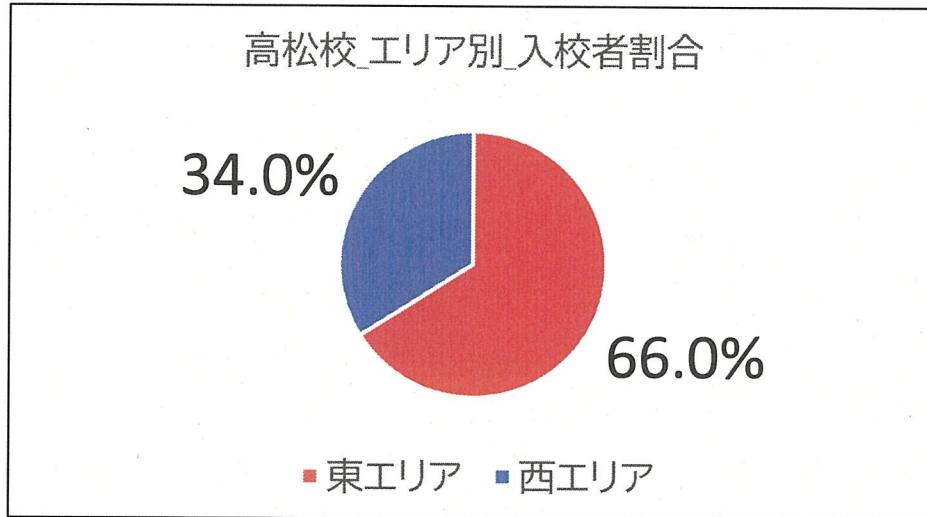
課程	学校名	学科名
文化・教養専門	専門学校穴吹動物看護カレッジ (高松市)	動物看護総合学科 動物健康管理学科
	キッズ調理技術専門学校 (高松市)	専門調理科
衛生専門	専修学校香川県美容学校 (高松市)	美容学科
	専門学校穴吹パティシエ福祉カレッジ (高松市)	パティシエ・ベーカリー学科
	専門学校穴吹ビューティカレッジ (高松市)	美容学科
	瀬戸内ナーシング学院 (高松市)	看護学科
	四国こどもとおとの医療センター 附属善通寺看護学校 (善通寺市)	看護学科
	穴吹医療大学校 (高松市)	看護学科 歯科衛生学科
	香川看護専門学校 (善通寺市)	第1看護科 第2看護科
	香川県歯科医療専門学校 (高松市)	技工士科 衛生士科
医療専門	高松市医師会看護専門学校 (高松市)	看護科
	四国医療専門学校 (宇多津町)	鍼灸マッサージ科 鍼灸学科(1部、2部) 柔道整復学科(1部、2部) 理学療法学科 作業療法学科 看護学科
	四国医療福祉専門学校 (高松市)	医療事務学科 臨床工学学科
	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ (高松市)	理学療法学科 作業療法学科
服飾・家政専門	シャルムドレスメーカー専門学校 (高松市)	服飾造形科 デザイナー科
	吉田愛服飾専門学校 (高松市)	洋裁科

## 利用者側(入校者の状況)からみた高等技術学校の訓練需要

- 入校者の状況をエリア別に比較すると高松校は東エリアの入校者が多く、丸亀校は西エリアの入校者が多い。
- 高松校、丸亀校それぞれに訓練需要があるといえる。

高松校のエリア別入校者割合 ※求職者向けコースのみ(R3~R5年度修了コース)

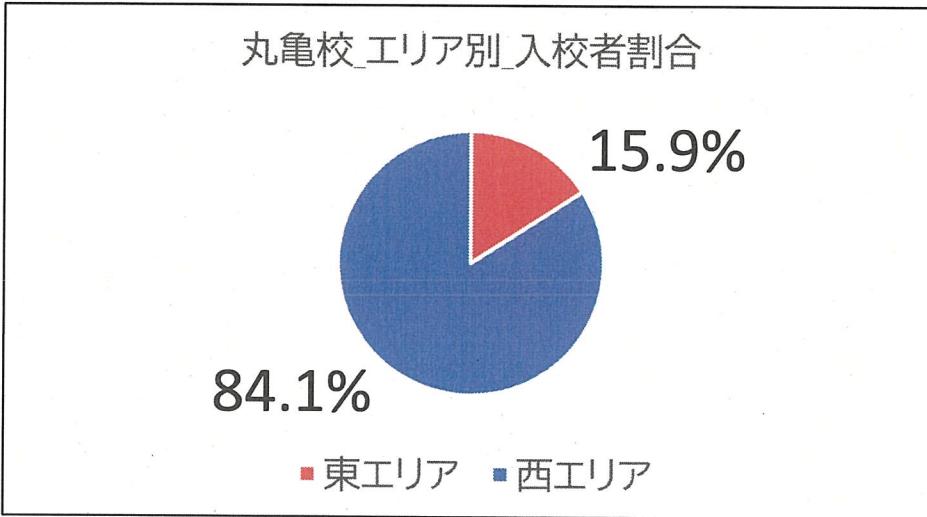
	東エリア				西エリア			合計	うち 東エリア	うち 西エリア
	高松	さぬき	東かがわ	土庄	坂出	丸亀	観音寺			
人数	152	13	2	6	30	41	18	262	173	89
割合	58.0%	5.0%	0.8%	2.3%	11.5%	15.6%	6.9%	100.0%	66.0%	34.0%



※ 県外からの入校者 5名を除く

丸亀校のエリア別入校者割合 ※求職者向けコースのみ(R3~R5年度修了コース)

	東エリア				西エリア			合計	うち 東エリア	うち 西エリア
	高松	さぬき	東かがわ	土庄	坂出	丸亀	観音寺			
人数	46	4	0	2	71	161	44	328	52	276
割合	14.0%	1.2%	0.0%	0.6%	21.6%	49.1%	13.4%	100.0%	15.9%	84.1%

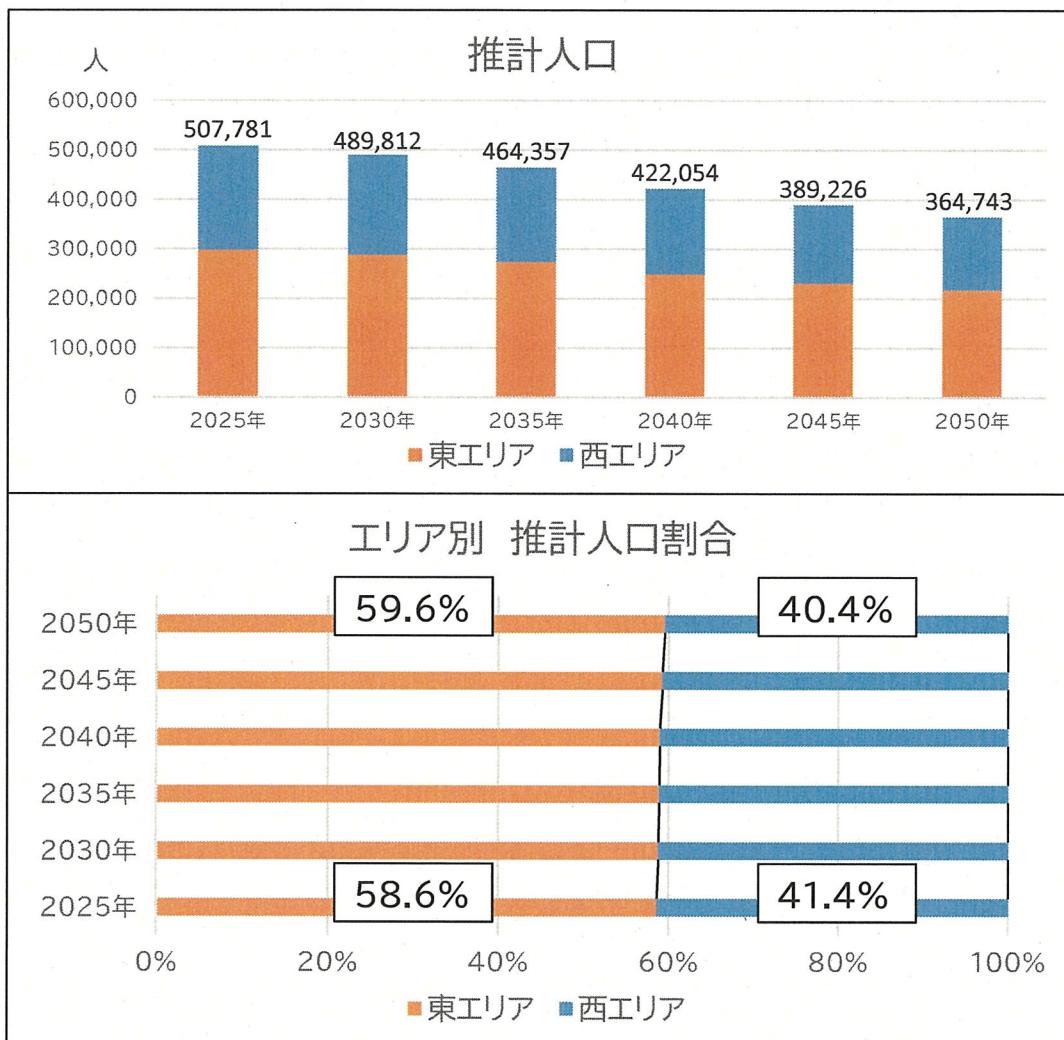


※ 県外からの入校者 5名を除く

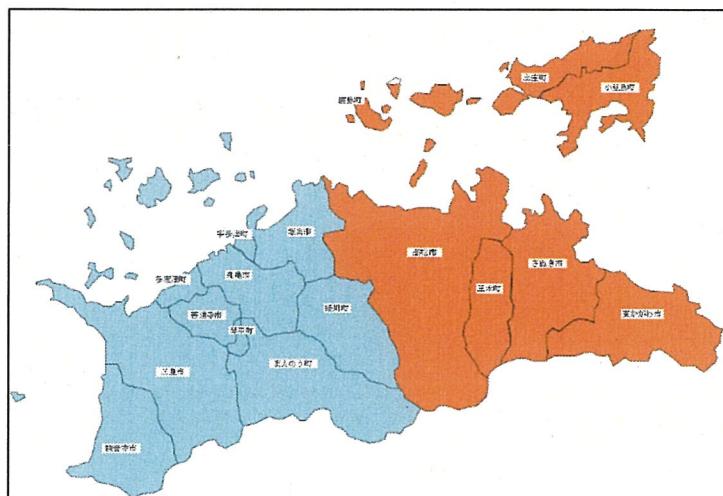
## 利用者側(今後の人団推計)からみた高等技術学校の訓練需要

- 将来においても高松校に近いエリアの人口と丸亀校に近いエリアの人口の割合は6対4という状況に変わりはなく、高松校、丸亀校は共に訓練需要が見込まれる。

香川県の推計人口について(生産年齢人口(15歳~64歳))



『日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計』(国立社会保障・人口問題研究所)を加工して作成



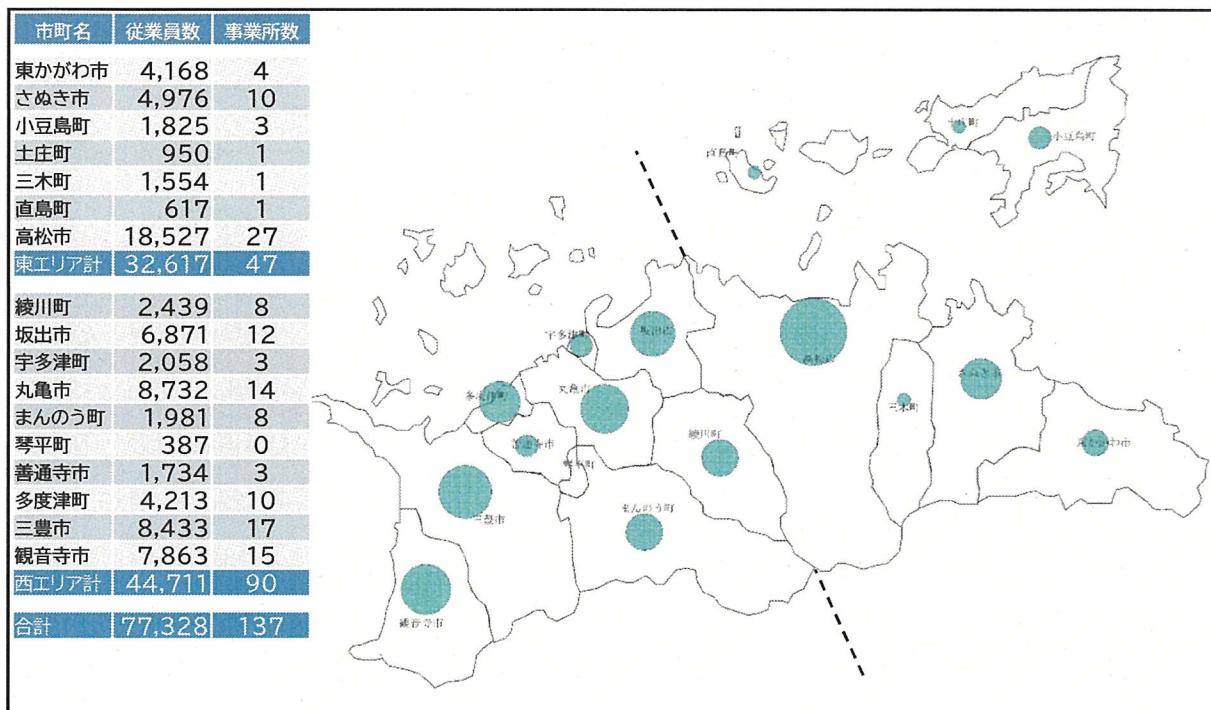
**東エリア：**  
東かがわ市、さぬき市、小豆島町、土庄町、三木町、直島町、高松市

**西エリア：**  
坂出市、綾川町、宇多津町、丸亀市、まんのう町、琴平町、善通寺市、多度津町、三豊市、観音寺市

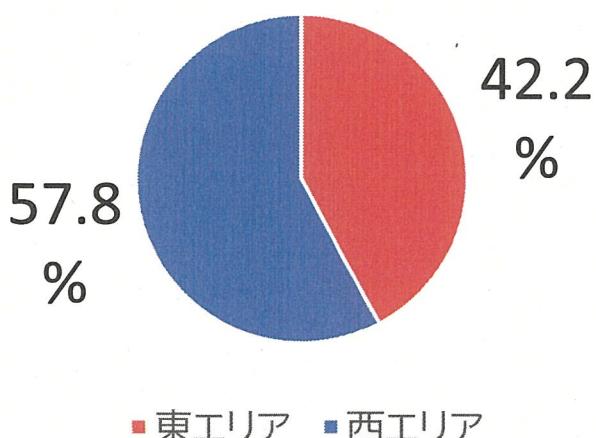
## 企業側(企業の立地状況)からみた高等技術学校の訓練需要

○製造業に関しては、従業者数や大規模事業所が東西両エリアにバランスよく分布していることから、高松校、丸亀校ともに県内ものづくり企業からの訓練需要に応えていく必要がある。

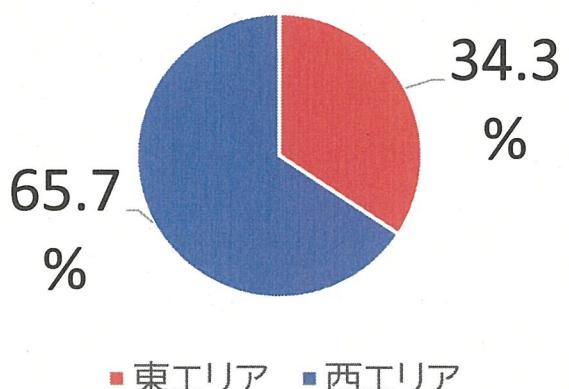
製造業における従業者数、常用雇用者が100名以上の事業所数



製造業における従業者数



製造業における常用雇用者が100名以上の事業所数



### 東エリア：

東かがわ市、さぬき市、小豆島町、土庄町、三木町、直島町、高松市

### 西エリア：

綾川町、坂出市、宇多津町、丸亀市、まんのう町、琴平町、善通寺市、多度津町、三豊市、観音寺市

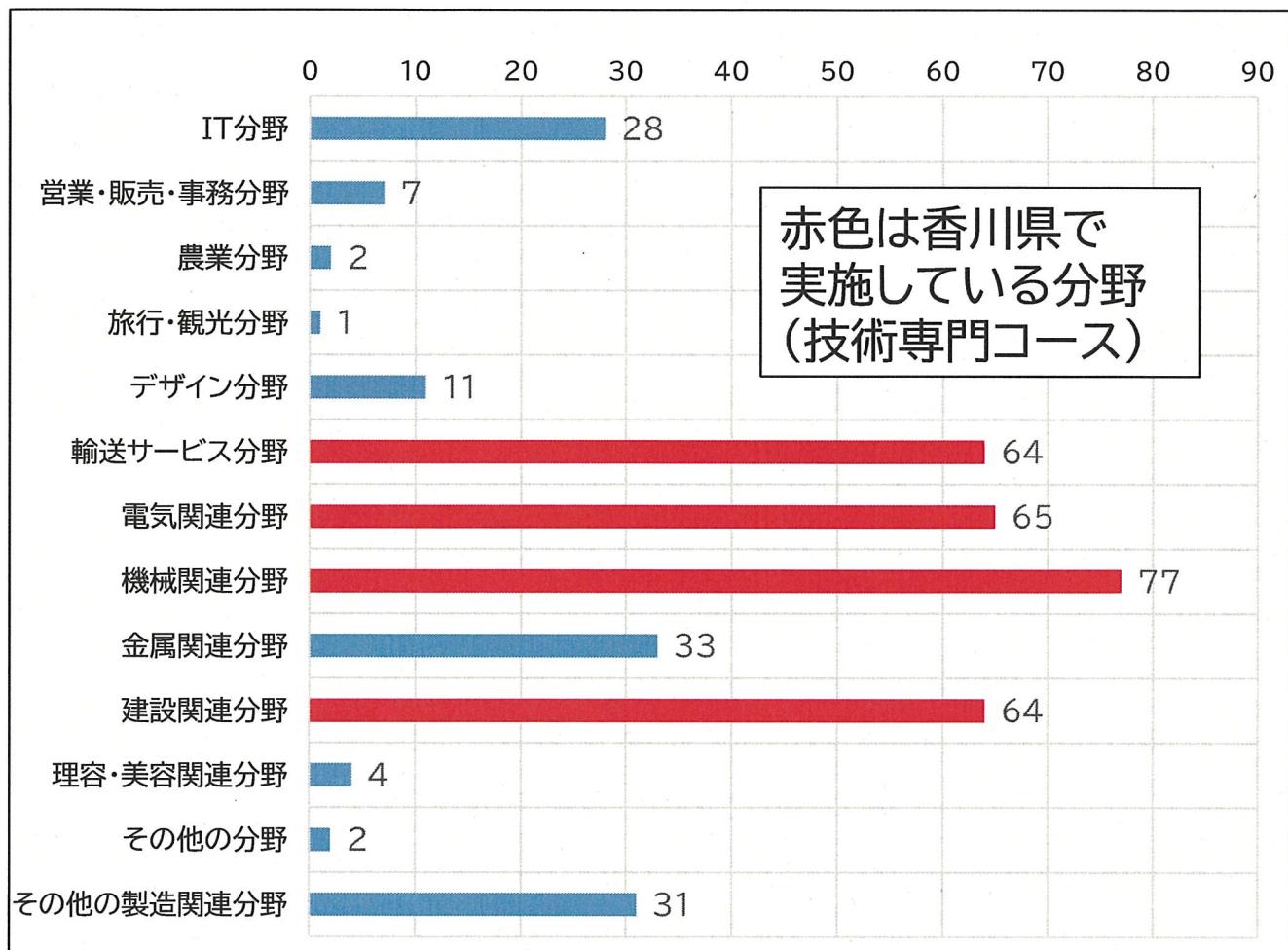
## 他都道府県での訓練実施状況との比較(技術専門コース)

○他都道府県で実施している主要な分野については、本県の高等技術学校でも実施している。

○IT分野については他都道府県で一定数実施されているものの本県の高等技術学校では実施していない

全国 分野別実施科数(普通課程・令和6年度)

単位:コース数



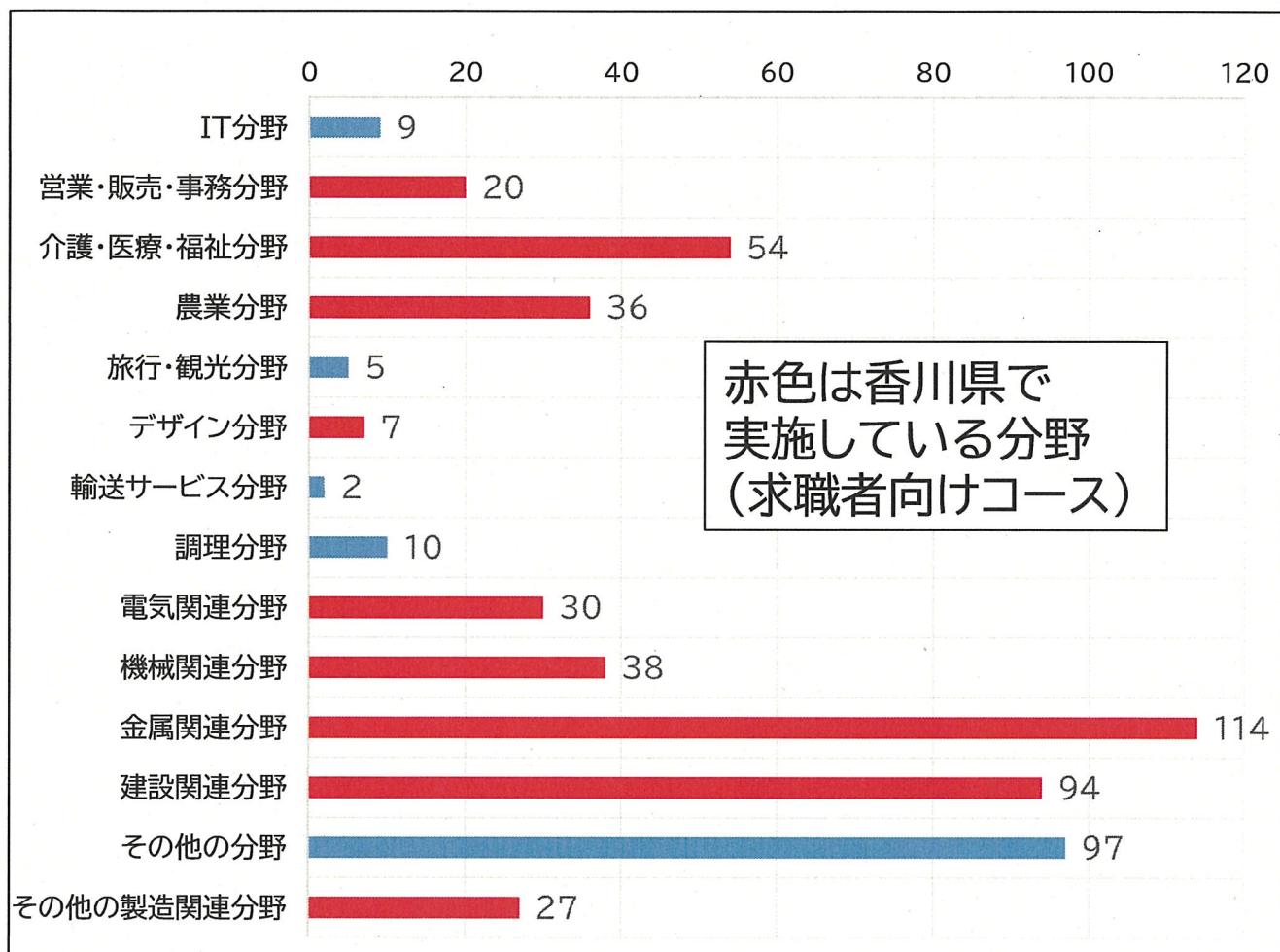
IT分野	プログラム設計科、OAシステム科 等
営業・販売・事務分野	OA事務科
農業分野	造園科
旅行・観光分野	観光ビジネス科
デザイン分野	デザイン科、広告美術科 等
輸送サービス分野	自動車整備科(自動車工学科)、自動車車体整備科
電気関連分野	電気工事科、電気機器科(電気システム科)、コンピュータ制御科 等
機械関連分野	機械製図科、機械加工科(機械システム科)、メカトロニクス科 等
金属関連分野	構造物鉄工科、溶接科、塑性加工科 等
建設関連分野	木造建築科(建築システム科)、配管科、建築設計科 等
理容・美容関連分野	理容科、美容科
その他の分野	化学分析科 等
その他の製造関連分野	木工科、印刷科 等

## 他都道府県での訓練実施状況との比較(求職者向けコース)

○他都道府県で実施している主要な分野について、その他分野(ビル管理等)を除き本県の高等技術学校でも実施している。

全国 分野別実施科数(短期課程・令和6年度)

単位:コース数



IT分野	情報処理科(プログラミング)等
営業・販売・事務分野	一般事務科、 <b>情報ビジネス科</b> 、販売科、経理事務科
介護・医療・福祉分野	介護サービス科
農業分野	造園科、園芸科
旅行・観光分野	ホテル・旅館科
デザイン分野	デザイン科、洋裁科
輸送サービス分野	自動車整備科
調理分野	調理科、給食科
電気関連分野	電気工事科、 <b>電気設備科</b> 、電子機器科 等
機械関連分野	機械製図科 機械加工科、 <b>パソコンCAD科</b> 等
金属関連分野	溶接科、 <b>金属ものづくり科</b> 等
建設関連分野	建築科、配管科、 <b>建築施工CAD科</b> 、インテリアサービス科 等
その他の分野	建築物設備管理科(ビル管理・ビルメンテナンス)等
その他の製造関連分野	<b>塗装技術科</b> 、木工科(木、竹、つる等の製品製造)等

## デジタル系訓練実施の状況(全国)

- IT分野については他都道府県で一定数実施されている。
- 本県では、高等技術学校の施設内では実施していないものの、民間教育機関に委託してデジタル系の委託訓練を実施している。

### 香川県が設置しているデジタル系の委託訓練

科名	訓練期間	訓練内容
ITシステム科	2年	IT関連業務に必要な知識と実技習得
WEB・プログラミング科	6か月	WEB・プログラミングに関する知識・技術、データベース操作の習得
IT・クリエイター科	4か月	IT関連業務に必要な知識と実技習得
PHPプログラミング科	4か月	PHPプログラミングに関する知識・技術、webページの制作・サイト管理に関する知識・技術
デジタルスキルアップ科	3か月	デジタル分野・WEBに関する基礎的な知識、プログラミングに関する基礎的な知識・技能の習得

全国の施設内でのデジタル系訓練実施状況(普通課程 情報処理系)

R6年4月時点

都道府県	校名	訓練科名	期間	定員
宮城	宮城県立白石高等技術専門校	プログラムエンジニア科	2年	20
秋田	秋田県立秋田技術専門校	情報システム科	2年	20
埼玉	埼玉県立川口高等技術専門校	情報処理科	2年	30
千葉	船橋テクノスクール	システム設計科	2年	20
東京	城東職業能力開発センター江戸川校	測定データプログラミング科	1年	25
東京	城南職業能力開発センター	OAシステム開発科	1年	30
東京	中央・城北職業能力開発センター	OAシステム開発科	1年	30
東京	中央・城北職業能力開発センター赤羽校	Web設計科	1年	30
東京	中央・城北職業能力開発センター板橋校	ネットワークプログラミング科	1年	30
神奈川	神奈川県立西部総合職業技術校	ICTエンジニアコース	1年	30
富山	富山県技術専門学院 本校	電子情報／IoT科	2年	20
三重	津高等技術学校	ICTエンジニア科	2年	10
京都	京都高等技術専門校	システム設計科	2年	20
大阪	南大阪高等職業技術専門校	Webプログラミング科	1年	30
奈良	奈良県立高等技術専門校	ITシステム科	1年	20
和歌山	田辺産業技術専門学院	情報システム科	2年	10
島根	島根県立西部高等技術校	OAシステム科	1年	10
島根	島根県立東部高等技術校	Webデザイン科	1年	10
広島	広島県立呉高等技術専門校	デジタル技術科	1年	20
福岡	小竹高等技術専門校	プログラム設計科	2年	20
福岡	大牟田高等技術専門校	ITエンジニア科	1年	20
福岡	福岡高等技術専門校	プログラム設計科	2年	20
大分	佐伯高等技術専門校	オフィスビジネス科	1年	20
鹿児島	姶良高等技術専門校	情報処理科	2年	20
沖縄	具志川職業能力開発校	情報システム科	2年	20

## 高齢者向け訓練実施の状況(全国)

- 訓練対象として高齢者向け職業訓練の区分はないが、他都道府県でのホームページなどには高齢者向け職業訓練として実施しているものがある。
- なお、本県の求職者向けコースでは高齢者が一定数受講している。

### 全国の実施状況(概ね50歳以上の方(原則45歳以上)対象の訓練)

R6年4月時点

業種	設置校	訓練科名	訓練期間	定員
建築・造園	多摩職業能力開発センター	庭園施工管理科	6月	30×2
施設管理等	// 八王子校	電気設備管理科	6月	20×4
//	城東職業能力開発センター	ビル管理科	6月	30×2
//	多摩職業能力開発センター	ビル管理科	6月	30×2
//	城南職業能力開発センター	設備保全科	6月	30×2
//	東京都立中央・城北職業能力開発センター 赤羽校	電気設備保全科	6月	30×2
//	城南職業能力開発センター	マンション維持管理科	3月	20×2
介護・調理等	中央・城北職業能力開発センター しごとセンター校	ホテル・レストランサービス科	6月	20×4
//	多摩職業能力開発センター府中校	生活支援サービス科	3月	15×4
販売員	福井産業技術専門学院	シニアワーキング科	3月	5×4

※各校のホームページから高齢者向け訓練として実施しているものを抜粋

### 年齢別(県)求職者向けコース入校者数(R3~R5年度修了コース)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
割合	2.0%	23.0%	22.5%	20.3%	16.2%	16.0%	100.0%
合計	12	138	135	122	97	96	600

高松校 塗装技術科	1	1	3	3	0	0	8
造園科	1	6	8	14	24	48	101
住まいリフォーム科	0	9	12	11	17	18	67
デザイン科	0	36	19	4	1	0	60
介護サービス科	0	1	4	9	11	6	31
計	2	53	46	41	53	72	267

丸亀校 電気工事科	1	6	6	6	8	4	31
住宅建築施工科	1	5	11	10	1	4	32
金属ものづくり科	3	5	5	2	3	2	20
パソコンCAD科	1	23	25	20	7	1	77
情報ビジネス科	2	39	35	34	13	3	126
ビル設備管理科	2	7	7	9	12	10	47
計	10	85	89	81	44	24	333

※年齢は入校日時点

## 障害者訓練実施の状況(全国)

- 全国の実施状況は別紙のとおり。
- (香川県)高等技術学校の施設内では障害者訓練を実施していないものの、企業や民間教育訓練機関等を活用した委託訓練を実施している。

### 障害者訓練の種類について

#### (1) 障害者職業能力開発校における職業訓練の実施

障害者職業能力開発校(全19校)において、職業訓練上特別な支援を要する障害者に重点を置いた職業訓練を実施

#### (2) 一般の職業能力開発校における職業訓練の実施

一般の職業能力開発校において、障害者訓練コースの設置等により、障害者に対する訓練を実施

#### (3) 障害者の多様なニーズに対応した委託訓練

企業、社会福祉法人、NPO法人、民間教育訓練機関等の多様な委託先を活用した訓練を実施

##### <訓練コースの例>

- ①知識・技能習得訓練コース(知識・技能の習得を座学中心で実施)
  - ②実践能力習得訓練コース(企業等の現場を活用した実践的な訓練を実施)
  - ③特別支援学校早期訓練コース
- (内定を得られない生徒を対象とした在学中からの訓練の実施)

### 香川県の障害者訓練設置コース(企業や民間教育訓練機関等を活用した委託訓練)

訓練コース名	訓練時間	年間定員	訓練内容
OA事務科 (知識・技能習得訓練コース)	3か月	20名	ワープロ、表計算の基本操作に関する知識習得

実践能力習得訓練コース 1~3か月 1~10名 企業等の作業現場で行う実践的作業実習など  
例:店舗での品出し、オフィス内での清掃

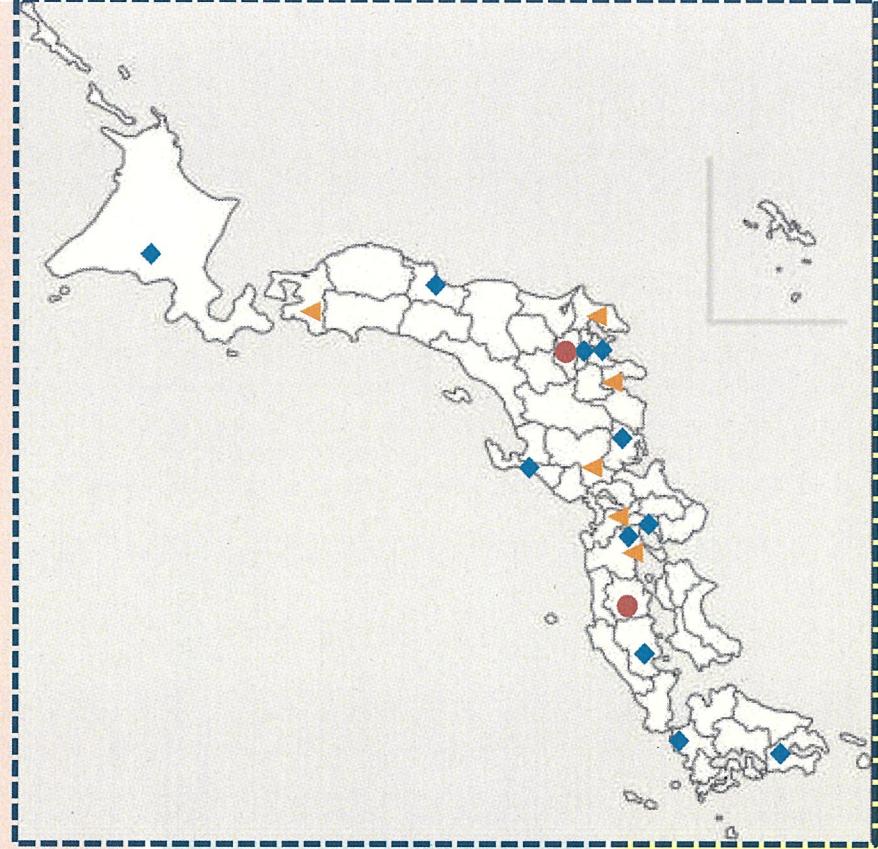
# 障害者職業能力開発校の概要

- 一般の公共職業能力開発施設において職業訓練を受けることが困難な重度障害者等に対して、その障害の態様に配慮した職業訓練を実施している。

## ○ 国立機構官校（2校）

- ・国が設置し、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が運営する障害者職業能力開発校
- ・先導的な職業訓練実施の成果をもとに、職業訓練内容、指導技法等を他の障害者職業能力開発校等に提供することにより、障害者職業訓練全体会のレベルアップに貢献

- 中央障害者職業能力開発校（国立職業リハビリテーションセンター）
- 吉備高原障害者職業能力開発校  
(国立吉備高原職業リハビリテーションセンター)



## ○ 国立県営校（11校）

- ・国が設置し、都道府県に運営を委託

- 北海道障害者職業能力開発校
- 東京障害者職業能力開発校
- 石川障害者職業能力開発校
- 大阪障害者職業能力開発校
- 広島障害者職業能力開発校
- 鹿児島障害者職業能力開発校
- 宮城障害者職業能力開発校
- 神奈川障害者職業能力開発校
- 愛知障害者職業能力開発校
- 兵庫障害者職業能力開発校
- 福岡障害者職業能力開発校

## ○ 県立県営校（6校）

- 青森県立障がい者職業訓練校
- 岐阜県立障がい者職業能力開発校
- 京都府立京都障害者高等技術専門校
- 千葉県立障害者テクノスクール
- 静岡県立あしたか職業訓練校
- 兵庫県立障害者高等技術専門学院

## 令和4年度 一般校における障害者対象訓練科の設置状況

- 令和4年度現在、一般校における障害者対象訓練科は28校、33科が設置されており、対象とする障害種別は知的が最も多く24科、次いで身体で3科、精神、発達、精神・発達がそれぞれ2科ずつとなっている。

都道府県名	実施校	訓練科	訓練期間	対象者	令和4年度				
					定員	入校者数	就職者数	就職率	
北海道	函館高等技術専門学院	販売実務	1年	知的	10	7	4	57.1%	
	旭川高等技術専門学院	介護アシスト	1年	知的	10	3	2	66.7%	
茨城	水戸産業技術専門学院	総合実務	6月	知的	20	11	7	63.6%	
埼玉	職業能力開発センター	サービス実務	1年	知的	10	8	8	100.0%	
千葉	我孫子高等技術専門校	職域開発	6月	精神・発達	10	10	6	60.0%	
	中央・城北職業能力開発センター板橋校	事務実務	1年	知的	10	2	2	100.0%	
東京	城南職業能力開発センター	実務作業	1年	知的	20	7	7	100.0%	
	城東職業能力開発センター	実務作業	1年	知的	20	6	6	100.0%	
新潟	新潟テクノスクール	総合実務	1年	知的	20	5	5	100.0%	
石川	金沢産業技術専門校	ワークサポート	6月	発達	10	5	5	100.0%	
福井	福井産業技術専門学院	ワークサポート	5月	精神	10	9	6	66.7%	
山梨	就業支援センター	総合実務	1年	知的	20	5	3	60.0%	
愛知	名古屋高等技術専門校	総合実務	1年	知的	10	5	5	100.0%	
	岡崎高等技術専門校	総合実務	1年	知的	10	6	4	66.7%	
三重	津高等技術学校	OA事務	1年	身体	10	5	3	60.0%	
滋賀	滋賀県立高等技術専門校草津校舎	総合実務	1年	知的	20	5	4	66.7%	
京都	福知山高等技術専門校	総合実務	1年	知的	15	9	5	55.6%	
	キリア・プログラム	精神・発達	10	10	8	8	8	100.0%	
	北大阪高等職業技術専門校	ワークトレーニング	1年	知的	20	15	11	73.3%	
大阪	夕陽丘高等職業技術専門校	ジョブステップ	6月	精神	10	10	8	80.0%	
	キャラアチャレンジ	ワークアシスト	1年	発達	10	10	5	50.0%	
	奈良県立高等技術専門校	販売実務	1年	知的	20	14	5	71.4%	
和歌山	和歌山産業技術専門学院	総合実務	1年	知的	20	9	7	77.8%	
鳥取	産業人材育成センター倉吉校	総合実務	7月～1年	知的	15	4	4	100.0%	
	島根	東部高等技術専門校	介護サービス	1年	知的	10	2	1	50.0%
岡山	北部高等技術専門校美作校	総合実務	1年	知的	10	4	2	50.0%	
熊本	熊本県立高等技術専門校	総合実務	1年	知的	16	12	6	54.5%	
宮崎	産業技術専門校高鍋校	販売実務	1年	知的	10	4	4	100.0%	
沖縄	具志川職業能力開発校	総合実務	1年	知的	15	4	1	25.0%	
	浦添職業能力開発校	オフィスビジネス	6月	身体	20	7	5	100.0%	
		オフィスビジネス	6月	身体	475人	240人	171人	73.4%	
					合計				

出典：厚生労働省（2025）「【資料2】障害者雇用に係る現状等」『第1回障害者職業能力開発校の在り方にに関する検討会』